

「人とAIが共生する中での人の働き方」

- AIによる仕事や業務の自動化と職種・働き方の変化
- AIと人の強みを活かした協働と、新たな価値創造
- 社会全体で必要となるスキル転換や人材育成
- 公平性や倫理を踏まえた持続的な共生社会づくり

講 師	(座長 — 総合司会) 東京大学 名誉教授	齊藤 忠夫 氏
	株式会社グローネクス 代表取締役社長	小出 翔 氏
	株式会社NTTデータ GenAIビジネス推進部 推進部長	奥田 良治 氏
	NECソリューションイノベータ株式会社 (講演順) イノベーションラボラトリ サイエンスラボラトリ第一グループ	佐々木 康輔 氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 1002 — 」開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「人とAIが共生する中での人の働き方」

日時 2026年 3月 25日 (水) 13時00分～16時50分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">●AIによる仕事や業務の自動化と職種・働き方の変化●AIと人の強みを活かした協働と、新たな価値創造●社会全体で必要となるスキル転換や人材育成●公平性や倫理を踏まえた持続的な共生社会づくり		
<p>現代社会はAI（人工知能）がもたらす大変革の真ただ中にあります。かつて「AIは人間の仕事を奪うのか」という問いが、メディアやビジネス界で盛んに議論されてきました。しかし、AI技術の急速な浸透と社会受容が進む中で、私たちが直面している現実には単純な「奪うか／奪われるか」ではなく、AIと人がいかに「共生」し、共に新しい価値や働き方を創っていくか、という課題へと進化しています。</p> <p>AIの普及・高度化はまず、多くの産業でルーティンワークや定型作業の自動化をもたらし、ホワイトカラーも含め「これまでの常識」が急速に変わっています。特に通信ネットワーク、IoT、IT、DX、電力ICT、サイバーセキュリティ分野など高度なデジタル技術と現場が直結する領域では、人とAIが密接に協働する場面が増えています。AIは膨大なデータ処理や分析、予測に優れていますが、人間には創造性、直感、倫理観、複雑なコミュニケーション能力といった「AIにはない強み」があります。</p> <p>これからの社会では、単にAIに仕事を「奪われる」ことを危惧するよりも、「人間とAIそれぞれの強みを生かし合い、相互補完・協働する」ことの重要性が一層高まります。例えば、診療現場ではAIによる画像解析が医師を補助し、検査精度や効率を大きく向上させています。カスタマーサポートの分野では、AIチャットボットが膨大な問い合わせ対応を自動化し、人はよりパーソナルなサービスや複雑な課題解決に集中できるようになっています。こうした分業体制により、人の仕事は「効率性」だけでなく、創造力、判断力、感性など“人間らしい”価値を一層深め、新しい職務領域の創出や働き方改革へとつながっています。</p> <p>労働市場の観点からも、AI時代には新たな職種や産業が数多く生まれ始めています。AIを設計・管理・訓練するAIトレーナー、AIと人間が安全・安心に働き合うためのインターフェースを設計するエンジニア、AI倫理や社会受容を担う専門家などがその一例です。こうした新しい職業は、「人がAIによって仕事を失う」だけでなく、「AI社会ならではの新しい働き方」「人の能力の拡張」といったプラスのインパクトももたらしているのです。</p> <p>一方で、AIの影響をただちに肯定するだけでなく、変化への適応・学び直し（リスキリング）、デジタル人材育成、ダイバーシティ推進といった社会全体の戦略的取り組みも必要です。AI時代の働き方には、コミュニケーションや共感、柔軟な組織設計、倫理・法制度の再設計が欠かせません。企業・官公庁・教育現場などあらゆる実践の現場で、「AIが得意なことはAIに任せ、人間は人間にしかできないことに専念する」社会設計が求められています。</p> <p>本フォーラムは、AIとの共生において“人らしい働き方”とは何か、次世代のビジネスや社会モデルはどうあるべきかを議論します。AI活用にとまなう効率化・合理化だけでなく、働き手ひとり一人の創造力や成長、ウェルビーイングが最大化される未来に向けて、「人とAIの協働」「人間の再価値化」など積極的な提言とともに、この新時代のハードルや課題、突破口となる具体策を紐解いていきます。</p> <p>(座長-総合司会) 東京大学 名誉教授 齊藤 忠夫</p>		

13:00 ～ 13:20	(基調講演) 「AIの急速な進化と人間の価値」	質疑 応答	齊藤 忠夫氏 東京大学 名誉教授
13:20 ～ 14:25	「AI時代の新しい「要員コントロール」のあり方」 ●欧州における「AIと人間との協働」、「ワークシェアリング」 ●米国における「週休3日制」への大きな期待 ●中国の製造業で急ピッチで進むAI・自動化 ●日本における人手不足時代の「AI共存」	質疑 応答	小出 翔氏 株式会社グローネ クサス 代表取締役社長
(休憩) (14:25 ～14:35)			
14:35 ～ 15:40	「生成AIの進化と企業の備え ～顧客の取組状況と活用の戦略～」 ●生成AIの驚異的な進化のスピードと会話・画像・音楽・動画生成の可能性 ●企業が生成AIを効果的に活用するための戦略的アプローチ ●サービス開発における生成AI活用の実践事例と成功要因 ●企業が今から準備すべき生成AI時代の組織体制と技術基盤	質疑 応答	奥田 良治氏 株式会社NTTデータ GenAIビジネス推進 部 推進部長
(休憩) (15:40 ～15:45)			
15:45 ～ 16:50	「AIと共生する未来へ：誰かだと思える「代理存在AI」の可能性」 ●人間の可能性を広げる心強いパートナー ●代理存在AI：誰かだと思えるAI ●人とAIが共生できる社会の実現に向けた新たなアプローチ ●全く新しいAIの形	質疑 応答	佐々木 康輔氏 NECソリューション イノベータ株式会 社 イノベーションラ ボラトリ サイエンスラボラ トリ第一グループ

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長 齊藤 忠夫 東京大学 (運営諮問委員会幹事)	名誉教授	中村 元 KDDI株	イノベーション技術部長
代表幹事 齊藤 忠夫 東京大学	名誉教授	宮川 潤一 ソフトバンク株	執行役員 (KDDI総合研究所 会長)
副代表幹事 服部 武 上智大学	理工学部 客員教授	石原 直 東京大学大学院	代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO
森川 博之 東京大学	大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授	浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所	工学系研究科 特任教授
成宮 憲一 一般社団法人 科学技術と経済の会	専務理事	遠藤 信博 日本電気株	代表取締役社長
幹事 尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU)	電気通信標準化局長	新野 隆 日本電気株	特別顧問
川野 真稔 総務省	国際戦略局 技術政策課長	木内 道男 日本電気株	取締役 会長
間宮 淑夫 内閣官房	内閣審議官	高木 康志 富士通 (株) SVP	執行役 Corporate EVP 兼 テレコムサービスビジネスユニット長
渡邊 昇治 経済産業省	商務情報政策局 総務課長	石田 貴一 ㈱日立製作所	事業部長
西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所	戦略的イノベーション研究推進事務局 次長	伊藤 明男 ㈱日立国際電気	副社長執行役員
立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所	取締役・特別顧問 (宇宙航空研究開発機構 元 理事長)	梶村 啓吾 エクシオグループ株	代表取締役社長
伊藤 寿浩 日本放送協会	技術局長	加茂下哲夫 /株式会社&ネットワーク株	代表執行役員社長
川添 雄彦 NTT株	チーフエグゼクティブフェロー		
池田 敬 NTT東日本株	代表取締役副社長		
桂 一詞 NTT西日本株	代表取締役副社長		
海老原 孝 NTT株	常務執行役員 技術企画部門長		
佐藤 隆明 ㈱NTTドコモ	代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO		
伊東 匡 NTTアドバンステクノロジー株	代表取締役社長		
稲葉 陽子 ㈱NTTデータグループ	技術革新統括本部		
		(主な設立発起人) 齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授 吉川 弘之 東京大学 元 総長 立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問 (宇宙航空研究開発機構 元 理事長) 元 政務調査会 調査役	
		(最高顧問) 甘利 明 元・経済産業大臣 金子 一義 元・国土交通大臣 林 芳正 元・防衛大臣	

マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1002 – 開催

●日時 2026年 3月 25日 (水) 13時00分～16時50分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●受講料	¥52,150.- (消費税を含む)	●参加申込要領
●申込先	事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190 〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351 E-mail fm@ahri.co.jp	
●申込方法	申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上 (http://www.ahri.co.jp)にてお申し込み下さい。	
●送金方法	銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普) 三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普) ※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。	
●キャンセル	フォーラム開催前、3月18日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡お願い 申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は 代理の方の出席が当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。	
●申込書について	ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。 尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。	

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1002 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL () -	
		FAX () -	
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名 (ふりがな)	

支払方法	●銀行振込 () 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書一 要・不要